情報を選び、つなげて、力に

村松 泰子

情報はモノと違い、ほかの人に提供しても減りません。積極的に情報を発信する人や組織には情報が集まりやすい傾向もあります。情報が共有され、多様な情報がつながることで掛け算的な展開も可能です。ただし、社会にはあふれるほどの情報が流れています。発信者が望んでも、すべての人に伝わるわけではありません。必要な情報は関心をもち、何かを得よう、学ぼうとする人がキャッチしやすいものです。

新聞やテレビなど主流のマスメディアの社会的な影響力は、以前ほど絶大ではなくなりましたが、政治・経済、その他市民生活にかかわる情報を多くの人が共有しやすいメディアとしては、依然力をもっています。しかし、日本のマスメディアで何を価値ある情報として取捨選択するか、編集するかを担っているのは、今も圧倒的に男性です。新聞記者の女性比率は現在でも17％弱にすぎません（2013年、日本新聞協会調べ）。記事が男性視線に偏りがちなことは否めません。

発信する側も多様でなければ多様な情報は提供されません。インターネットやツイッター・フェイスブックなどSNSの発達は、かつてとは比べものにならないくらい幅広い人たちの発信を可能にしました。マスメディアで取り上げられにくい情報を発信するオルタナティブメディアも、活発化しています。これらは、限られたテーマであったり、限られた人の中での情報流通ではあるものの、時に多くの人に大事な情報を伝え、大きな力を発揮しています。

マスメディアに載りにくい女性たちの声や活動を集めて伝えるメディアも重要です。このたび、公益財団法人日本女性学習財団の理事長に就任しましたが、財団刊の本誌『We learn』は、男女共同参画社会を目指し編集する月刊情報誌です。読者と相互交流しつつ、情報を共有し、つなげていく場として、これからも充実させていきたいと思います。

PROFILE

むらまつやすこ：公益財団法人日本女性学習財団理事長。NHK放送文化研究所研究員、東京学芸大学教授・理事・学長を経て、2014年6月より現職。専門は社会学、とくにメディアとジェンダー、教育とジェンダー。近年の共著書に『学校教育の中のジェンダー』（日本評論社，2009）、『高校の「女性」校長が少ないのはなぜか』（学文社，2011）、『テレビ報道職のワーク・ライフ・アンバランス』（大月書店，2013）ほか。